

政策体系	基本目標名	01	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	施策主管課長	産業政策課
	政策名	02	地域資源を活かしたまちづくり		
	施策名	01	中心市街地及び地域市街地の活性化		
施策関係課	文化推進課、観光推進課、都市計画課、都市整備課、道路河川課				塩野 裕

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標				単位	R4	R5	R6	R7	成果指標設定の考え方		
	①中心市街地（佐野駅周辺地区） ②地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）	① 中心市街地（佐野駅周辺地区）活性化計画区域面	ha	96	-	-	-					①②③中心市街地及び地域市街地（田沼・葛生）における店舗数が増加する、または減少しないことを把握することにより、活性化が図られていることが確認できるため、成果指標として採用した。	
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標（意図の達成度を表す指標）				区分	単位	R4	R5	R6	R7		成果指標の取得方法
	①商業を中心とした魅力ある中心市街地を創出する。 ②地域特性に応じた生活機能の充実、活性化を図る。	① 中心市街地のメイン通り沿いの店舗数	目標	軒	320	325	330	335					
		② 地域市街地のメイン通り沿いの店舗数（田沼）	目標	軒	83	84	85	86					② 実調査による
		③ 地域市街地のメイン通り沿いの店舗数（葛生）	目標	軒	47	48	49	50					③ 実調査による
		④	実績										④

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7		
中心市街地の賑わいの創出	①中心市街地活計化計画区域	①人の交流がさかん、商業地域となっている。	① 中心市街地における定住人口	目標	人	6,801	6,759	6,718	6,677	地域市街地の特色ある発展	①田沼駅及び葛生駅周辺地区	①地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。	① 地域市街地（田沼）の定住人口	目標	人	8,702	8,705	8,708	8,711		
			実績											実績							
			② 空き店舗活用件数（累計）	目標	件	60	65	70	75												
			実績																		
			③ 市道57号線、駅南公園区画整備率	目標	%	88.1	100	-	-				② 地域市街地（葛生）の定住人口	目標	人	1,963	1,951	1,940	1,928		
			実績			25.6	-	-	-				実績								
			④ 中活施設・公共交通機関年間利用者	目標	人	140,000	150,000	160,000	170,000				③ 空き店舗活用件数（累計）	目標	件	4	6	8	10		
			実績			166,659	-	-	-				実績			2	-	-	-		
			①	目標									④	目標							
			②	実績									①	実績							
			③	目標									②	目標							
			④	実績									③	実績							
				目標									④	目標							
				実績										実績							

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和4年度施策の取組方針		施策の取組方針・成果指標達成状況	
	取組方針	成果指標	取組方針	成果指標
	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地、地域市街地の空き店舗調査を実施し、各団体等と連携の上、地権者の意向確認、利用希望者とのマッチングを進める。 市道佐野57号線道路改良事業は、用地買収と物件補償を進め、駅南公園西土地区画整理事業は、建物等の移転補償、工事を進める。 株式会社足利銀行佐野支店跡地は、民間活力による整備のための準備を進める。 コンパクトシティの実現に向け、まちなか賑わい創出のための新たな方を定め、具体的な対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地、地域市街地の空き店舗調査を実施し、現状を把握するための調査結果が得られた。 コンパクトシティの実現に向けた商業の集約として、新たに不動産業者へ空き店舗情報の提供依頼を行ったが、地権者の意向確認、利用希望者とのマッチングまでできなかった。また、地域市街地活性化ではまちなかおこし協力隊員や大学生と連携し、商工会青年部や地元住民との意見交換や地元住民を含めたワークショップ等を実施し、賑わい創出に向けた対策の検討を行った。 駅南公園西土地区画整理事業と市道佐野57号線道路改良事業は、連携しながら移転補償、用地買収を中心に一体となって事業を進めた。 （株）足利銀行佐野支店跡地の整備方針について、まだ方針は決定されていないが、さのまちづくり（株）を中心に整備検討を進める方向性で進める意向をさのまちづくり（株）へ伝えた。 		
基本事業	令和4年度基本事業の取組方針		基本事業の取組方針・成果指標達成状況	
	取組方針	成果指標	取組方針	成果指標
	<ul style="list-style-type: none"> 駅南公園西土地区画整理事業及び市道佐野57号線道路改良事業は、それぞれの事業で連携し、移転補償、用地買収を中心に道路築造、整地などの工事にも着手する。 民間団体等と連携し、賑わい創出のための事業展開を図るとともに空き店舗対策を積極的に進める。 コンパクトシティの実現に向け、（株）足利銀行佐野支店跡地などのまちなか活性化の拠点整備を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画区域内の遊休地での分譲や集合住宅の建築が増えている。 「市道佐野57号線」については、区画整理事業の進捗に遅れが生じたため、目標88.1%に対して実績25.6%で目標は未達成であった。 コロナの影響も薄れ公共交通利用者の増により目標を上回った。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 生活拠点として商業・居住などの都市機能の拡充を図るため、若手住民や学生からの意見を集約し、若者の視点による地域市街地の活性化の具体策を検討する。 民間団体等と連携し、賑わい創出のための事業展開を図るとともに空き店舗対策を積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基本事業の取組方針達成状況】 【成果指標達成状況】 田沼では空き店舗活用補助を活用し4店舗の出店があったが、高齢化やコロナの影響による廃業や区画整理事業等による取壊しもあり、目標を下回っている。 葛生では補助金を活用した空き店舗活用による出店もあり目標を上回った。 		

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
		市民	事業所	行政
	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトシティの実現に向け、中心市街地等への都市機能の集積や居住の誘導を図る必要がある。 今後の中心市街地のあり方については、地元の商工業者、有識者から、民間主導に重点を置いた取組を行うべきとの意見が出されている。 民間事業者を中心にまちなか活性化のための新たな開発整備の動きがある。 市議会の一般質問において、地域市街地の活性化のための取組強化（R3. 2月）、中心市街地と県道拡幅との関連での空き地、空き店舗の有効活用（R3. 6月）の意見が出されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日用品等は、可能な限り各市街地内で確保する。 各市街地内の土地所有者については、住宅、店舗として有効な土地活用を進めると共に、買い物客への効率的な駐車スペースの提供を行う。 各地域の特色を活かしたまちづくりに積極的にかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> 商工団体等が中心となって、活性化の具体的方策を打ち出す必要がある。 魅力ある店舗への創意工夫や利用可能な空き店舗の活用を積極的に行う。 各店舗等で取り扱う商品の独自性を高めることや、新鮮で安価な商品の提供、更には他業種との連携を心掛け活性化につなげる。 中心市街地及び地域市街地活性化のため、さのまちづくり（株）及びまちなか葛生（株）の積極的な活動が期待されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地で必要となっているインフラ整備を計画的に進める。 地域市街地内では、既存ストックを十分活用しつつ、生活拠点として必要な住環境を確保する。 商工団体等と一体となって、各市街地の活性化施策を検討し、効果的な事業を展開する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 市道佐野57号線道路改良事業及び駅南公園西土地区画整理事業は、連携しながら移転補償、用地買収を中心に事業を一体で進めてきたが、道路改良事業区間での物件補償及び用地買収において地権者との交渉協議に不測の日数を要した事により繰越となった。また、区画整理事業地区の物件移転は玉突きでの移転のため、年数棟しか移転できないこと及び移転対象物件の内、未相續で補償相手が特定できない物件が2件あり、当初事業計画通りの物件移転補償等を進められず、令和5年度までの事業期間は5年間延伸し10年度までに変更になった。 中心市街地での空き店舗調査は、さのまちづくり（株）に業務委託しデータによる結果を入手するとともに、田沼駅・葛生駅周辺の空き店舗調査も実施し、地図上での調査結果を得ることができた。今後は未活用となっている空き店舗の有効活用に向け、物件所有者への買付協力が必要である。 コンパクトシティの実現に向けた商業の集約として、市内不動産業者へ中心市街地・地域市街地での空き店舗活用補助の説明と空き店舗情報の提供依頼を行ったが、物件のマッチングにはつながらなかった。 まちなか婚活推進事業は、さのまちづくり（株）へ委託を行い、コロナ禍での感染防止対策を徹底しながら実施。誕生した5組のカップルには、まちなかの店舗等のクーポン券を交付しまちなかでの消費活動につなげた。 （株）足利銀行佐野支店跡地の整備の方向性について検討まで至らなかった。 中心市街地でカフェの出店が増えていることから、来訪者が回遊する際の休憩場所のPRとして、女性目線でのカフェマップを作成・配布を行った。 中心市街地での空き店舗活用補助を活用した新規出店数は4件あった。また、これまで空き店舗活用補助の例が無かった田沼駅周辺で、空き店舗活用支援の相談を1件受け付けた。 令和4年度の決算額 1億75,679千円で、令和3年度決算額 2億10,166千円と比べ34,488千円の減額となった。その主な要因は駅南公園西土地区画整理事業及び市道佐野57号線道路改良事業の期間繰延による減額分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 【令和5年度で解決する課題】 中心市街地活性化に向け自治体や商店街の枠を超え「まちなかをマネジメントする」ことを目的とした組織として（仮称）佐野市まちなか活性化推進協議会を設置する。 地域市街地の活性化に向け、まちなか地域おこし協力隊や宇都宮大学との連携のもと、地元住民やあそ商工会青年部と連携した継続可能なイベントの実施。 【令和6年度以降にも引き継がれる課題】 ①集客力の促進とコンパクトシティに向けての取組みの検討 ②市道佐野57号線道路改良事業及び駅南公園西土地区画整理事業の推進 ③中心市街地における空き店舗の利活用促進 ④（株）足利銀行佐野支店跡地の整備促進 ⑤地域市街地における活性化対策の推進 【令和6年度重点課題】 ⑥中心市街地活性化施設を活用した賑わい創出事業の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ①中心市街地活性化基本計画の将来像「活力あふれる暮らしやすいまち」の実現に向け、さのまちづくり（株）や地元事業者と連携を密にし、空き店舗活用やイベントの開催等、にぎわい創出事業に通じるとともに、コンパクトシティの推進に向け都市機能の集積や居住の誘導につなげる。 ②市道佐野57号線は道路事業と区画整理事業の同一路線であり連携しながら事業の進捗を図らなければならない。今後、道路事業分が先行するため、車両進入の安全の確保を検討しながら事業を進める。 ③さのまちづくり（株）と連携を強化し、空き店舗活用を進めながら地元事業者や地元住民と協力したソフト事業の実施に向けた取組を行う。 ④さのまちづくり（株）と連携し、まちなか活性化の拠点としての（株）足利銀行佐野支店跡地整備を進めるとともに、市民交流施設の利便性の向上を図る。 ⑤田沼・葛生駅周辺の地域市街地について、地域おこし協力隊員や大学生との連携してきた事業を継続していくため、地元事業者や住民との連携を深め賑わい創出事業を推進する。 ⑥ポストコロナでの対応として、ばるぼーと・まちなか活性化ビル・まちなか賑わい空間を有効活用し、回遊を促す賑わい創出の取組を支援する。